

岩美町中央公民館（仮称）建設設計者選定審査委員会評価結果

【総評】

岩美町中央公民館（仮称）建設設計業務プロポーザルに技術提案のあった4者について、評価を行った。

評価にあたっては、「①複合施設における公民館機能・図書館機能の連携及び共用スペースの有効活用化、誰もが気軽に集い利用しやすい施設とするための提案」「②敷地の効果的な利用の手法及び省エネルギー設備の利用などによる環境や施設周辺への配慮に関する提案」「③図書館機能について、学習や研究だけでなく、身近でくつろぐことができ、様々な世代や人と本を通じて交流できる手法に関する提案」「④建設費及び維持管理費のコスト縮減に関する提案」の4提案について提案者名を伏せて各委員が書面評価を行い、その後、公開ヒアリングにおいて各提案者の説明を受け、質疑によりさらに提案内容への理解を深め最終評価を行った。

各提案者が限られた期間内に諸条件を満たす充実した提案をされ、まずそのことについて選定審査委員会として礼を申し上げたい。提案の各所にわたり甲乙つけがたいポイントがあったものの、評価の結果は次のとおりである。

最も高い評価点を得たのはD社である。全体を通して、基本構想・基本計画をよく考慮し「未来に向け まなぶ・つどう・つなぐ 創造の場」としての提案がなされていた。エントランスホールにより多目的ホール・図書館・公民館の各機能をつなぐプランは利用者の動線だけでなく、個々の機能が十分に果たされるよう配慮されたものとなっていた。また、ポケットスペースを設ける提案は細分化により空間のゆとり課題を感じるものの、多様な使い方やコミュニケーションの誘発が期待されるほか、公民館と図書館の事務室を集約することによる管理面の効率化、書架の2層化、収納スペースの確保、コスト面でも現実的で効果の期待できる環境配慮に関する提案など、随所に高評価を得る結果となった。

次点はB社である。外観意匠についての考え方に評価があった。また、町道をカーブさせ、建設スペースを確保することで図書館等の仮設を不要とし、事業費の低減と既存施設の継続利用を可能とする配置提案は、駐車場スペースのイベント会場利用など多様な利用形態を想定したものであり評価を得た。一方、施設利用者は町道を横断する必要があり、安全面での懸念と体育館との距離感に対する懸念が残った。

A社においては、中庭により自然光を多く取り入れた明るい施設空間や、全体的な空間設計の新しさは評価を得たものの、各機能間の動線や管理コストなどが懸念された。C社においては、木材を多用した外観デザインが温かみと周辺との調和を感じさせたものの、複合施設として各機能の連携と共用スペースの有効活用に対する提案で、複数の機能を同一空間に配置することにより利用時間などに融通性が得にくいという懸念を払拭するに至らなかった。

審査委員会は、D社を最も適切な技術提案者として選定したことをここに報告するが、網羅的な提案内容が更に精査され、また、これからの公民館・図書館として相応

しい外観イメージに配慮され、利用者に愛される施設となるよう期待する。

【評価点】

順位	評価点
①	71.50
②	68.33
③	60.67
④	55.67

平成28年10月25日

岩美町長 榎本 武利 様

岩美町中央公民館（仮称）建設設計者選定審査委員会
委員長 遠藤 由美子